Saga Women's Junior College

佐女短研究紀要　第50集：247―284，2016

女子教育へのまなざし

―大隈重信と中島ヤス―

横　尾　文　子，國　原　香　住，江　口　直　明

Insight into the Education of Young Women

Ayako YOKOO　　Kazumi KUNIHARA　　Naoaki EGUCHI

まえがき

佐賀市大隈記念館と佐賀女子短期大学生涯学習センターとの共催で，2015年５月23日と30日の２週にわたり表題の講座が，大隈記念館で持たれました。鼎談形式による90分の講座内容を，以下に掲げ，報告といたします。なお，講演記録は２回目のみを掲載いたします。

レジュメ

第１回目　平成27年５月23日（於）大隈記念館

女子教育へのまなざし　Ⅰ

―大隈重信と中島ヤス―

横　尾　文　子
國　原　香　住
江　口　直　明

今，あらためて，女子教育を考える

１）大隈重信と女子教育　　２）中島ヤスの女子教育
３）大隈を支えた女性たち　４）ヤスを支えた人々

大隈重信（1838－1922　天保９－大正11）85歳（数え年）
中島ヤス（1876－1951　明治９－昭和26）76歳

一通の手紙

大隈熊子氏　来簡　　昭和５年12月３日　麻布局消印　（書留　封書　巻紙　墨書）

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

表　　東京市麻布區材木町四番地
　　江副綱子様　御親展
裏　　東京府豊多摩郡戸塚町字下戸塚八〇
　　大隈熊子　　（住所・差出人名はスタンプ，紫色）

拝啓　時下初冬之候／愈々御清祥慶賀之／至に奉存候陳は此程は／御光来を辱うし御丁／重之御儀奉恐入候不／相変何之御構も不致／御無礼之段平に御宥／恕被下度候其節御話しの／中嶋様御計営之／女学校へ心斗りの御寄／付乍略儀別紙小為替／を以て御手許迄差／上候間御手数恐入候得共／御序の節御先方へ／御送達被下度奉願上候／時下日増しに加寒之砌／御自愛御専一之様／奉萬祷候　先は右御願旁／匆々如此に御座候／拝具／十二月三日／大隈熊子／江副綱子様　御許に／　乍失禮書留料金／御封入申上げ候

一金参拾圓也
佐賀高等裁縫女学校
寄付金
東京市牛込
無名氏

※江副綱子様　　実習女学校を立ち上げた人物の１人，ヤスの恩師筋。

旭学園の課題　　先人の女子教育に残した足跡をたどること

◇『旭学園100年の歩み』　1997年

大隈重信「佐賀実習女学校記念講演」（明治29年４月28日，佐賀自由新聞に翌日掲載）

婦人一たび他に嫁つげば一家を立つるの大役を負たんせねばならず　国を治むるにも先一家を治むるが大根本なり　斯くて段々すれば子供も出来ると心配も亦軈て多く父母の孝養子供の教育最も主なるものにて万一にも不幸に逢着するとなきやを保せざれば婦人たるものは必ず一種手術（注：手芸の事）の藝能なくては叶わず　素より婦人の手術は他の會社の様に器械を購求するとか社長其他の役員を撰ぶとか事六箇敷手数を要せず　又多額の資本をも要せず　家内にて夜分でも何でも内職で出来るものなれば是より簡易にして且便利なるものはなし　佛国の手術品は世界第一と誇り居れりと　皆さんが勉強さへすれば日本人は佛人よりも巧妙の手を持ち居れば之を圧倒するとも出来るものなれば兎角勉強が肝要なり

（『旭学園100年の歩み』平成９年11月刊，27頁の写真より翻刻）

◇佐賀新聞「ふるさとスケッチ」　2013年

例年より早い桜の開花にとまどいながらも，やっぱり桜はいい。人は毎年この花にそれぞれの思いを重ねながら，新たな一歩を始める。

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

佐賀市水ケ江，会所小路の大隈重信侯旧宅。世界的政治家として，また早稲田大学の創設者として，多くの功績を残した佐賀の七賢人の一人である。生家の白壁に映える満開の桜が美しい。

明治29年４月29日の佐賀自由新聞に，大隈重信侯の佐賀での講演を報じる記事がある。これからの女子教育の必要性を説いたものである。佐賀女子短期大学の母体である旭学園の創設者中島ヤスは，その講演に大いに感銘を受けたという。そして侯は経済的支援も行った。先人たちの女子教育に，残した足跡は大きい。桜花一輪ほのかな歴史が香る。

（佐賀女子短期大学学長　山田直行）

（佐賀新聞「ふるさとスケッチ」　2013年４月10日より）

１）大隈重信と女子教育

明治28年１月，母三井子死去。

明治29年４月，法要墓参のため佐賀へ帰郷（４月25日～５月17日）

（大隈夫妻，県尋常中学校・実習女学校（明治23年開校）に100円，必習学館に10円，市内各小学校に寄付。実習女学校に造花器械・材料費など寄贈）⇔　女子教育の必要性を説く

明治23年，私立実習女学校設立

明治32年，私立佐賀女学校（大隈重信後援，２年制，豊増一女・永渕アサ子）の設立

明治34年，佐賀県高等女学校開校　⇔　与謝野晶子『みだれ髪』

明治35年，私立成美女学校（実習女学校と佐賀女学校の合併）

「男女両本位論」（明治30年）

経済界には単本位が善いけれども，社会はそれではいかぬ。従来わが国の社会は単本位であり，片輪であった。外国と誼みを結ばなかった時代なら，それでもよかったが，今後世界と対等に発展してゆかなければならぬ時代においては，これではいかぬ。殷鑑遠からず，トルコや朝鮮支那にある。単本位のそれらの諸国においては，いづれも国勢衰微したのも観ても分かる。四千万の同朋の中，その半数二千万人の女子が無学文盲で，その地位が下がっては，依然たる片輪の国である。日本は大いに考えなければならぬ。

「帰郷記念講演」（中等女学生に，大正６年５月24日，80歳，願正寺）

子どもという者は一体にお父さんよりもお母さんを慕うものである。打てば泣く，嬉しい時は笑う，実に利己的なものである。親はこれを愛する，すなわち愛の結晶をもって子供を愛する。この親の愛が孝の基であり，人間道徳の基である。皆さんはお母さんに苦労をかけているのであろう，孝行せねば不可ぬ。親が人の行の根本であり，賢も愚もこれによってわかれるのである。いかに境遇が変わっても，最初から親のない子どもはいない。故に常に孝の一字を忘れぬように心がけねばならぬ。国の繁栄は実にかくして三千年来続いてきたので

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

ある。（中略）

人情というものは清い心の発達によって成り立つものである。夫が汗を流して帰ってくれば妻は充分の同情心をもってこれを迎えねばならぬ。家庭は全て情で成り立つものである。川上の鮎，あの鮎は瀬に棲む，鳥は木に棲む，人は情の下に住むのである。それ程情は必要である。夫の心を優しくするのも妻たる者の情の力である。

「**女子本領論**」（大正８年）

女子の本領特質は愛情である。愛情は根源であり，社会文明の根本である。しかして女子の天職もここにある。

２）中島ヤスの女子教育

◇祖母チカから先祖を辿る

本村善太郎（執筆当時，最高裁判所判事。ヤスと同郷鍋島村出身）

中島家は其昔佐賀藩の名門でありまして，先祖代々鍋島村に住し藩公の命で一村の教育行政を初め其他一切の指導権を有し村民の徳望を一家に集めておられた家柄であります。

（校友会誌「新暁　３」頌徳記念碑号　昭和26年）

祖母チカの先祖が，高麗人・林栄久（りんえいきゅう）であったことが判明。

鍋島直茂が朝鮮役の際に，林栄久を連れ帰り，直茂・勝茂に医術で仕えた。

栄久の次男・林 形左衛門（はやしぎょうざえもん）は，鍋島忠直に追腹。

「**林形左衛門，出仕支度中忠直公逝去の報を聞いて殉死す**」（栗原荒野『校註葉隠』471）

後世，その子孫は鍋島村で歴代「教育行政」（私塾）を担う。

◇ヤス

明治９年，８月26日出生。父寅之助10月26日死亡（36歳？）

明治25年，勧興小学校卒業，東京香蘭女学校入学（16歳）

明治26年，３月21日姉クマ死亡。ヤス帰省，佐賀実習女学校入学。

明治28年，義兄善之と婚姻，鍋島の養生（ようせい）小学校に訓導として奉職（19歳）

明治29年，大隈重信の帰郷講演を聴講（20歳）

明治30年，可憐な少女に自宅で**裁縫・礼法**を教える。家塾の始まり（21歳）⇔咸宜園閉鎖

明治37年，佐賀市与賀町に転居。裁縫教授所を設立（28歳）

昭和15年，３月入学定員100名に対し320名の応募（64歳）

第二校舎増築：先生の留守中に石棒突を済ましたら，残念に思われ，「大事な校舎の地固めを校長の留守にしたのではいけません。私は，御先祖の仏様にお参りして，御先祖の仏様といっしょになって石棒突をします」といって，更に石棒突をやりなおされた。

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

旭の如き心を望む　　中島　ヤス（74歳，創立50周年頌徳記念碑竣工挨拶）

・・かように本校が創立以来，家庭教育に根ざして女子教育に専念した結果は，本校の生徒が家庭婦人として立派な品格と才能を備えるため，更に，社会に働く婦人に適応する技能と人格を学ぶ間に和やかな**家庭的情味と社会協同の精神**が自主的に生れてきました。

・・現在も将来もこの三つの要素即ち盛り上る力（自主的活動），信頼と敬愛（一校一家），及び女性の向上（男女平等）の発揚に努力したいと思います。

・・在校生ばかりでなくこの学窓を巣立つ卒業生にもお願い致したいのは，家庭にあっても，社会に出ても，更に国際的に活動される場合でも常に「**旭の如き心にて**」本校で修得された品格と学識を生かしてそれぞれのつとめを立派に励まれたく希望してやみません。

（「新暁　2」，昭和25年３月）

§警世教育，一部のエリート養成ではなく，女性が日々直面している生活に洗練と充実をもたらす教育。家庭が社会につながる潤滑油の役割。

§「良妻賢母」の語を用いず「家庭的情味と社会協同の精神」を使用

ヤス臨終の言葉「（昭和26年）三月十八日でした。いろいろお話申上げたあと，沢山ありましょうが，先生はどんな教訓をよりよくお心になされましたかとお尋ね申上げましたところ，一寸お考えのようでしたがすぐ，右のほほを打たれたら左のほほを出せ，こんな気持ちでナーとあとはニッコと笑って私の顔を見られました。」（卒業生・陣内里子）

学園訓　順和　礼譲　敬愛　奉仕

理想の女性像

そのひとのいるところ常にほのぼのとしたものがただよい，
その人は美しいものにすなおに感動し，
何人からも何ものからもからも何かを学びとることができるすなおな心を持ち，
いらだちやつぶやくことなく生きることに感謝できる人

三つの心：「美しさを求める心」「すなおな学びの心」「生きることに感謝する心」

３）大隈を支えた女性たち

ファーストレディ　綾子　　もうひとりの妻　美登　　娘　熊子

４）ヤスを支えた人々

中島善之（夫），水田正之（義弟，裁判所検事），中島有恒（娘婿，大蔵省官吏），
平又一（県庁，農商務省官吏），宝蔵寺学進（宝塔山住職）

NII-Electronic Library Service

県外には，本村善太郎（最高裁判所判事），西原民平，末次政一，鈴木伴実（官吏）
佐賀同郷婦人会（東京：鍋島侯爵夫人・大隈熊子・水町チカ子・中島ツネ子・小林ミネ子）
佐賀婦人会（会長：豊増一女）

※夫：善之（明治44年～昭和６年，現在の**佐賀清和学園の初代校長**・校主は内田清一）

実科女学校→佐賀実科高等女学校→清和高等女学校→財団法人　佐賀清和高等女学校
明治44年　　大正７年　　大正13年　　昭和15年

→学校法人　佐賀清和高等学校
　昭和23年

ヤ　ス

裁縫塾→中島裁縫教授所→佐賀裁縫女学校→佐賀高等裁縫女学校→
明治30年　明治37年　　大正12年　　昭和４年（翌５年大隈熊子氏より寄付）

佐賀高等実業女学校→財団法人旭高等女学校→財団法人佐賀旭高等学校→
昭和18年　　昭和21年　　昭和23年

学校法人佐賀旭高等学校→学校法人旭学園（短大，高校，幼稚園）
昭和26年　　昭和41年

第２回目　平成27年５月30日（於）大隈記念館

女子教育へのまなざし　II

―大隈重信と中島ヤス―

横　尾　文　子
國　原　香　住
江　口　直　明

今，あらためて，女子教育を考える

1）日本の女子教育論　　2）佐賀独自の「葉隠」という水脈
3）佐賀「賢女」の手本　　4）「忠」「孝」
5）同時代女性たちの活躍　6）大隈とヤスの女子教育論
7）今，あらためて，女子教育を考える

大隈重信（1838－1922　天保９－大正11）85歳（数え年）
中島ヤス（1876－1951　明治９－昭和26）76歳

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

1）日本の女子教育論　―貝原益軒から福沢諭吉まで―

貝原益軒（1630－1714　寛永７－正徳４）85歳　『女大学』

福沢諭吉（1835－1901　天保５－明治34）67歳　『女大学』を徹底的に批判

『女大学評論　新女大学』（明治32年４月～７月，34回「時事新報」に掲載）

近代日本にふさわしい女性教育ならびに生活の方針・内容・方法などを23ヶ条に論述。大正末期までに50版流布

2）佐賀独自の「葉隠」という水脈　―その教育論・女性観―

栗原荒野，その神髄を「真剣に，仲よく，頑張れ」を挙げていた

子どもには「うそいわぬ，よくばらぬ，へこたれぬ」

大隈の見解→「奇異なる書」の感慨（52歳頃）

→（79歳）当時の通弊が工夫を欠き，いたずらに世間の流行をのみ追うて去るをみて，ここに反抗したので，時人を警醒するの語は往々にして矯激に過ぎ，学問を嫌うともいっているけれども，その本意は家風を主張してやまざるところに存する。（『鍋島論語葉隠』序文）

ヤスの先祖→林形左衛門（高麗人，鍋島忠直公没に追腹）「没我的忠誠」

→端的只今の一念より外はこれなく候，一念々々と重ねて一生なり。（２－17）

3）佐賀「賢女（さかしめ）」のお手本　ほとめき上手

枝吉喜世（1798－1857, 60歳。枝吉神陽・副島種臣の母）→「葉隠」記載の執行越前守の妻を手本とする

（①越前守のために部下たちをかわいがり世話をしたため，越前守が討ち死にしたとき，部下たちは生きて帰っては越前守の妻にあわせる顔がないと，36名が勇猛果敢に討ち死にしてゆく。神陽の母もこの心がけで家僕に接していたので，枝吉家で過失を犯して出て行った者も，婦人の死を聞いて泣き崩れ，頭を丸めて冥福を祈ろうとした。）

（②姑に微塵もさからわずに15年間つとめた。姑は必ず，賢い子どもを産むであろうと人に告げていた。）　大園隆二郎『枝吉神陽』（佐賀城本丸歴史館，P17）

大隈三井子（みいこ）（1805－1895，90歳。大隈重信の母）

母三井子が諭した人生五訓

１，喧嘩をするな　２，人をいじめるな　３，いつも先を見て進め

NII-Electronic Library Service

4，過ぎたことを振り返るな　5，人が困っていたら助けよ

民衆政治家としての大隈の信条

1，物事は楽観的に考えよ　2，怒るな　3，愚痴を言うな

4，貪るな　5，世のために働け

中島　サタ（1849－1934，86歳。中島ヤスの母）

（①母堂貞子刀自はクマ子及びヤス子の二女を抱えて28歳の若さで寡婦となられ，厳格な父君に仕えて中島家を守り実によく働きよく努めた方であった）。

（②神仏信仰の念篤く生涯質素倹約を守り教え子はもとより出入りの職人其他世の人々を愛し，陰徳を施されるので誰もおばあ様おばあ様といってなつき，また，折にふれてのお話はそのまま世渡りの道にて敬慕の的であられた。）

（③よく口にされた言葉「親は子頼り　子は親頼り　池の小鮒は水頼り」。）

（「新暁　9」創立60周年記念号，昭和33年）

4）「忠」「孝」→楠木正成・正行父子を祀る「**義祭同盟**」1850年（嘉永3）

枝吉神陽の発議

→佐賀藩にあって「忠」は天皇家への忠誠，幕府に対してではなかった。

大隈八太郎も18歳，21歳のころ，都合3回の参加が確認されている。

5）同時代女性たちの活躍

豊増　一女（とよます　はじめ　1871－1950）明治4－昭和25

明治21年佐賀婦人矯会を結成，初代会長。23年実習女学校，32年佐賀女学校を設立，35年両校を合併し成美女学校とする。戦後は佐賀市新道幼稚園長。佐賀市婦人会会長。ヤスの実習女学校時代の恩師筋に当たる。

永渕　アサ子（武富已南”の二女）

豊増一女などと佐賀婦人矯会を組織し，実習女学校設立などにも参画。

黒田　チカ（1884―1968）明治17－昭和43　佐賀市出身

大正2年，わが国初の帝国大学女子学生（3人）として，東北帝国大学化学科に入学。東京女子高等師範学校の教授をする傍ら理化学研究所での研究を開始。昭和4年植物「紅」の色素の研究で，女性では二番目の理学博士になった（化学分野では初めて）。オックスフォード大学，お茶の水女子大学などで研究して，教壇にも立った。

6）大隈とヤスの女子教育論

大　隈

「**女子本領論**」（日本女子大学の学生に，大正8年）

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

女子の本領特質は愛情である。愛情は根源であり，社会文明の根本である。しかして女子の天職もここにある。

ヤ　ス

「**旭の如き心を望む**」（頌徳記念碑建立　挨拶　昭和25年）

家庭教育に根ざして女子教育に専念した結果は，本校の生徒が家庭婦人として立派な品格と才能を備えるため，更に，社会に働く婦人に適応する技能と人格を学ぶ間に和やかな**家庭的情味と社会協同の精神**が自主的に生れてきました。

§女子教育が浸透していく中で，ヤスも一翼を担い，女性自らが担っていた「家庭教育」の延長線上で，女性の生き方を洗練させるべく，「品格と学識」を生かすよう努めた。

家庭にあっても，社会に出ても，更に国際的に活動される場合でも常に「**旭の如き心にて**」本校で修得された品格と学識を生かしてそれぞれのつとめを立派に励まれたく希望してやみません。

§「旭」→「太陽のように公平に生徒に斉しく光と熱を教育愛の形で注ぎ，それぞれの性質と能力に応じて立派に育成して有能な社会人を育成」

（長男：中島貞善氏の見解，昭和36年）

§「こころ」→　心，情，意，神　←　万葉時代

heart feeling emotion mind soul spirit

（古代人は，人の「こころ」と神の「こころ」は連動している）

↓

神仏信仰へと繋がる

7）今，あらためて，女子教育を考える

「**女子教育奨励会**」（明治20年設立）

日本の貴婦人に欧米諸国の貴婦人と同等なる佳良の教化及び家事の訓練を受けさせる。翌年，「諸外国の人々と対等に交際できる国際性を備えた，知性豊かな気品ある女性の育成」を目指して東京女学館を開校。

「**男女共同参画社会基本法**」（平成11年）成立

女性の社会進出が進んできているが，昔ながらの家庭教育の行方は？

知育偏重　⇔　佐世保，名古屋などの事件

大隈の主張「女子の本領特質は愛情である。愛情は根源であり，社会文明の根本である。」
ヤスの「家庭教育に根ざした女子教育」に，今の教育を考えるヒントは残っていないのか？

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

エリート教育を論じるばかりでなく，地域を支える中間層の教育の行方は？

⇔「魂の教育」と評されたヤスの教育にヒントがありはしないのか？

§　§　§　§　§　§

◎山下行夫氏の見解（元佐賀市教育総務課長）

日本における男女共学・別学に関する研究は，主として，第一にその制度的変遷が行政的観点から考察されてきたこと，第二に，男女別学・共学は生徒の性差意識やジェンダー観の差異及び形成に関わるものとして考察されてきた。言い換えれば，「なぜ男女共学化が進められるのか」という点，特に，「生徒の学習や教授そのものにとってなぜ男女共学が望ましいのか」という点については，十分な議論がなされてこなかったと言えよう。

例えば，男女別学教育に対して，一方では，それを性別役割分業観を補強し男女平等を妨げる教育形態であると批判する見方があり，他方では，それを「リーダーシップ」を育成したり勉学に集中したりするために望ましい教育形態であると支持する見方が存在する。

相反した評価を伴う見方の存在は，「**男女平等**」「**教育の機会均等**」**といった側面に焦点が当てられ，教育の目的，内容，効果といった点は十分に論じられてこなかったのではないか。**

§　§　§　§　§　§

＜付録＞

江戸期の学校には，支配層である武士のための「藩校」，庶民のための「寺子屋」，それら二つの中間にあたる「郷校（ごうこう），私塾」がある。『佐賀県教育史』第一巻の「私塾・寺子屋」には，鍋島村に五件の寺子屋，六件の私塾が記載されている。

〔寺子屋〕観音寺，清（栖）龍院，聖楽寺，福満寺，慈眼寺

〔**私　塾**〕鍋島（教師名：武藤勝之助），蠣久（深堀次兵衛），植木（中野逸作），東新庄（**林形左衛門**），森田（大石与市），八戸（力武熊之助）

講演記録　第２回目，５月30日

【松藤生涯学習センター長】

こんにちは。今日はようこそいらっしゃいました。先週に引き続きまして，「女子教育へのまなざし―大隈重信と中島ヤス―」ということで，佐賀女子短期大学教授の横尾文子先生，大隈記念館元学芸員の國原香住先生，大隈記念館館長の江口直明先生，三人の先生方にお話をいただきます。

私は，佐賀女子短期大学生涯学習センター長をしております松藤と申します。先週は所用がございまして駆けつける形になってしまいましたけれども，改めてこの場を借りてご挨拶をさせていただきます。

先週は，大隈重信が「男女両本位論」という持論に立って女子教育を考えていたということ，江戸時代の流れを汲んで封建主義的な考え方が強かった明治時代に，「女子の本領特質は愛情で

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

ある。愛情は根源であり，文明社会の根源である」という，現代に通じる考え方を持っていた人であったことを教えていただきました。

そして，佐賀女子短期大学，佐賀女子高等学校，幼稚園を擁します今日の旭学園の母体となる私塾を創立した中島ヤスは，良妻賢母的な英才教育としての女子教育が主流であったその時代にあって，時流に流されずに，家庭的な情味が大切であるという考え方の下での女子教育を始めたこと。この考え方の根底には大隈重信の影響が大きかったのではないか，ということを教えていただきました。

また，大隈重信がそういう考え方をするに至った背景には，母の三井子の存在があったのではないかというのも興味深いお話でございました。

それでは先週に続きまして，三人の先生方どうぞ，よろしくお願い致します。

【横尾】

みなさん，こんにちは。女性講師二人はか弱くって（笑），前回は声が遠くまで届かなかったんだそうで，失礼いたしました。今日はご飯をしっかり頂きまして，それでも不安でございますからマイクを用意いたしました。

そこで今日は前回のおさらいを兼ねてお話をさせていただきたいと思います。レジュメは早く作っときましたもんですから，今日はレジュメの順序通り１）からではなく６）から始めます。「大隈とヤスの女子教育論」というところがありますが，そこからおさらいを兼ねてお話をさせていただきます。

少ない方を「レジュメ」，厚い10何枚もあるのを「資料集」というふうに分けていただいてよろしいでしょうか。大隈の女子教育，資料集の№６をご覧いただけますでしょうか。

【國原】

それでは最初に，先週のおさらいと致しまして，御手元の資料集６ページ「大隈重信と女子教育」というところを簡単に振り返ってから，今日の本題の方に入って行きたいと思います。

前回ご紹介しましたが，去年こちらの大隈記念館で『大隈家の女性たち』という企画展を行いまして，その内容の前半で大隈さんを取り巻く女性たち，お母様であったり奥様であったり御嬢さんのご紹介をして，後半の方に大隈さんの女子教育というところをご紹介しました。大隈さんと女子教育の分野は，福沢諭吉先生や他の先生方に比べて著書も少なくまだまだこれからの分野と思い，非常に興味深い内容と思いまして，去年採りあげてご紹介しました。実は大隈重信というのは早くから女子教育に注目しておりまして，ご自身の故郷，佐賀の女子教育にも大きな影響を与えたということをお話ししたいと思います。

資料集の６ページの上の方からご覧いただきたいのですが，最愛のお母さん三井子さんが明治28年に亡くなられまして，その翌年，佐賀から東京の方に出られて初めて，約30年ぶりに佐賀の地に帰ってきました。

この佐賀の地に帰ってきたときに，大隈さんと奥様は数々の学校，尋常中学校や実習女学校に

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

寄付金を贈っています。またその他いろいろな所を回りまして，女子教育の必要性ということを説いて回っております。その時，明治29年４月28日付の佐賀自由新聞に大隈さんの講演内容が掲載されました。ちょっとご紹介いたしましょう。「佐賀実習女学校での講演」です。

婦人一たび他に嫁げば一家を立つるの大役を負たんせねばならず　国を治むるにも先(まず)一家を治むるが大根本なり，（中略）

婦人たるものは必ず一種手術，（手芸の事ですね）**の藝能なくては叶わず**

素(もと)より婦人の手術は他の會社の様に器械を購入するとか社長其の他の役員を撰ぶとか事六箇敷(むつかしき)手数を要せず　又多額の資本をも要せず　家内にて夜分でも何でも内職で出来るものなれば是より簡易にして且便利なるものはなし　佛国（フランス）の手術品は世界第一と誇り居れりと　皆さんが勉強さへすれば日本人は佛人よりも巧妙の手を持ち居れば之を圧倒するとも出来るものなれば兎角(とかく)勉強が肝要なり　（太字部分は本文のまま引用，以下同じ）

こういう内容を女学生たちに向けて講演をしている訳です。ちょうどその頃明治29年というのは，日本女子大学をつくった成瀬仁蔵という先生がいらっしゃいまして，この成瀬仁蔵先生が日本で初めて女子大学をつくろうと，非常に奮闘していた頃で，明治29年大隈さんはその成瀬先生と出会ったそうです。そういう大きなことをするというので，大隈さんを頼ったわけですね。すると大隈さんは難しいことだけれども名誉なことだと言って，日本女子大学の創立にかなり力を入れていきます。そして自ら創立委員長になったのが明治29年です。

その翌年の明治30年「男女両本位論」というのが提唱されましたけど，これは帝国ホテルで女子大学創立披露のパーティを行った時に，講演した内容です。

新説とも言える進歩的な意見を大隈さんはここで述べております。これも折角なのでご紹介しますが引用文ですので，今現在あまり使われない言葉も入っていますけれども，ちょっとその辺はご了承してお聞きいただければと思います。

経済界には単本位が善いけれども，社会はそれではいかぬ。従来わが国の社会は単本位であり，片輪であった。外国と誼(よし)みを結ばなかった時代なら，それでもよかったが，今後世界と対等に発展してゆかなければならぬ時代においては，これではいかぬ。殷鑑(いんかん)遠からず，トルコや朝鮮支那にある。単本位のそれらの諸国においては，いづれも国勢衰微したのも観ても分かる。四千万の同朋の中，（この頃の日本の人口だったんでしょうね。）**その半数二千万人の女子が無学文盲で，その地位が下がっては，依然たる片輪の国である。日本は大いに考えなければならぬ。**

今日は男女複本位でなければ，社会の進歩，文化の向上を望むことが出来ない。今後の日本は女子に高等教育を授けて，婦人の知識を高め，その徳操，人格を完成し，社会上種々の方面に，その能力を出来るだけ多く発揮せしめなければならぬ。

大隈さんは女子の高等教育に非常に力を入れておりまして，女の人の知識を高めていこう，日

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

本が何千万の半分の力しか発揮できないのでは，それでは日本の力は衰えていくのではないかということを訴えました。その当時，この明治30年というのはちょうど松方財政で貨幣制度の改革をしていた時期でした。ここに「単本位」とか「複本位」とか，あまり聞きなれない言葉がありますけれども，その頃の貨幣制度で例えば金貨がメインだったら金本位制，銀貨がメインだったら銀本位制というような言葉を使っており，明治30年は金本位制の貨幣制度が成立した頃だったので，大隈さんはちょうどその頃，政治の時事の話をこういうところに入れながらお話をされていたわけです。例え話としてもってこられています。

その次に大正６年の記事です，「帰郷記念講演」。中等女学生にお話したんですけれども，願正寺でお話した内容です。大正６年大隈さんが最後に里帰りされた時ですね。この時は女学生に向けてお話しています。こちらは解り易い内容ですね。

子どもという者は一体にお父さんよりもお母さんを慕うものでしょう。打てば泣く，嬉しい時は笑う，実に利己的なものです。親はこれを愛する，すなわち愛の結晶をもって子どもを愛する。この親の愛が孝の基であり，人間道徳の基である。

というふうに家庭の愛情，親の愛，お母さんの愛というのをここでも大隈さんは強調されているわけですね。さらに進めて，

家庭は全て情で成り立つものである。川上の鮎，あの鮎は瀬に棲む，鳥は木に棲む，人は情の下に住むのである。それ程情は必要である。夫の心を優しくするのも妻たる者の情の力である。

ということで，家庭の教育，家庭の愛情というのが大事だよということをここでもお話されています。

大隈さんは後にお母さんの教育を振り返った時に，お母さんの三井子さんは何でもできる人だった，と。お料理もできるし裁縫もできるし，いろんなことができるんだけれども，特に心を込めたのは愛児の教育だったと振り返っています。ただ溺愛するだけじゃなくて，そのしつけは厳格であったとそういうふうに捉えていて，自分の女子教育の女性論の中にお母さんの教えというのが見て取れます。

最後，大正８年「女子本領論」というのを大隈さんは提唱しました。大正８年というのは，日本女子大学をつくりました成瀬仁蔵先生が亡くなられたのがこの頃だったんですね。大隈さんは成瀬先生が女子大学をつくる時だけ協力したのではなくて，亡くなった後も生徒たちが気を落としているから自分が行って励ましてあげようというので，たびたび講演に訪れておりました。その時に日本女子大学の学生さんたちに向けてお話したのが，ここに書いてある「女子本領論」です。

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

女子の本領特質は愛情である。愛情は根源であり，社会文明の根本である。しかして女子の天職もここにある。

女子の天職とまで言ってありますけれど，女性の愛情というのは家庭だけではなくてそれが社会訓練の方向にもつながっていくんだよということを言っておりまして，特に純正の愛という言葉を使ってあるんですね。そういったとこで母性愛，家庭愛，それから女性の愛情もって過ごしていかなくてはいけないよという，これは大隈さんの晩年ですから，彼の集大成的な考えであるのかなと思います。

このほか，女子教育支援ということでは，佐賀にも明治32年，34年，35年・・とレジュメに書かれているように貢献しています。後は，下に矢島楫子（かじこ）と書いていますが，こちらは今東京の女子高の御三家と言われる女子学院という学校をつくった熊本ご出身の方です。この方もそういった女子教育の向上に貢献した一人ですが，大隈さんと関わりがあったことが書簡や写真などから判明し，そういったところにも大隈さんの力が垣間見えたり，調べていくといろんなところで大隈さんは女子教育に力を注いでいたんだなということがよくわかりました。

こういうことで前回は大隈さんの女子教育論をお話しました。

【横尾】

ヤス先生，同じ７ページです。

昭和25年，亡くなる１年前ですけれども「中島ヤス子先生頌徳記念碑」いう石碑が建ちました。その時の竣工ご挨拶の原稿でございます。「旭の如き心を望む」という題です。私たち「旭学園」佐賀女子短期大学と名乗っていますが，「旭」の語は，昭和21年，つまり敗戦後，佐賀旭高等女学校と名乗るようになったときに初めて使われた単語です。

３行目から行きたいと思います。

本校五十有五年の歴史を考えますと，初め女子の家庭教育を致し，のちには女子職業教育を併せ行って，卒業生六千余を社会に送り出しております。

かように本校が創立以来，家庭教育に根差して女子教育に専念した結果は，本校の生徒が家庭婦人として立派な品格と才能を備えるため，更に，社会に働く婦人に適応する技能と人格を学ぶ間に和やかな家庭的情味と社会協同の精神が自主的に生まれてきました。

高等女学校に改められるとき，過去の校歴と将来の希望を深く考えまして私は旭の校名を選び学校役員其他一同の賛成を得て校名が定まりました。

そして最後に，**現在も将来もこの三つの要素即ち盛り上る力（自主的活動），信頼と敬愛（一校一家），及び女性の向上（男女平等）の発揚に努力したいと思います。**

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

というご挨拶がありました。信頼と敬愛（一校一家）とありますけれども，ヤス先生は息子さんがビルマ，今のミャンマーですかね，に応召してらっしゃいます。8年間，帰ってみえなかったんです。戻って見えてから，息子貞善さんに学校を託されたので校長は貞善先生となりました。それまではヤス校長先生だったんですけど，それ以降はヤス先生を「お母さん」と呼ぶようになり，生徒からも「お母さん，お母さん」と慕われていたそうです。そして，今，私どもでは3代目ユキ理事長を記念した「中島ユキ賞」（平成9年より）という学生表彰があるんですが,50年前すでに「母の賞」というのがあったらしく，よくお勉強した人にもそうですけれども，何かを頑張った人にも「よく頑張ったね」という感じで母の賞は与えられていたようでございます。

資料集8ページに，

「**家庭教育に根差して女子教育に専念**」したと，こういう講演をなさいましたヤス先生はどういう家柄のお出であったか，そういったこともちょっと皆様にご紹介すべく，年譜と家系図を資料集につけています。

明治25年　16歳の時，東京の香蘭女学校に進学されました。ミッションスクールでございます。名門校でございます。やっと東京に進学したのに，翌年3月21日お彼岸の中日にお姉さんのクマさんが亡くなりました。姉クマさんは20歳，お婿さんの善之さんは27歳でございました。妹ヤスは急ぎ帰省し，佐賀の実習女学校に入学。19歳でその女学校を卒業し，養正（ようせい）小学校,今の鍋島小学校に訓導として奉職されました。同時に，義理のお兄さんであった善之先生と結婚。善之先生は長崎師範学校出身の教育家でありまして，姉のクマさんと結婚されたとき，既に中島家の家督を継いでおられました。翌明治29年20歳の時，ヤスさんは母校の実習女学校で大隈重信講演を拝聴することになります。

明治30年　21歳のとき，鍋島村に少女梅崎ふみ子さんという方がおられて，ちょっと不自由なところのある少女だったそうですけれども，その母親から「私がもし亡くなったら，この子はどうなるか心配だ。何とか一人ででもやっていけるように，どうかヤスさん，お作法や裁縫を教えてくれ」と頼まれます。「それじゃ，いたしてみましょう」と，…ここからヤス先生の塾が始まります。晩年になっても梅崎ふみ子さんのことは，とっても懐かしかったらしくって，短歌に詠みこまれています。

梅崎ふみ子を想ひて

植えしより　五十年（いつとせ）経ぬる　庭の梅　旭に映えて　香る嬉しさ

と詠んでおられます。

梅崎ふみ子さんにお裁縫やお作法を教えることから始まった私塾ですが，どんどん評判になって，普通の御嬢さんたちも教えを乞うようになり，主に裁縫，それから作法，お茶ですとかお花ですとかそういったものを教えておられたようです。

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

それから長女ヨネさんが小学校に入る頃，勧興小学校に入れたいと思われて，ご自分も勧興小学校卒業生ですから…。勧興は，昔の鍋島藩の学校ですよね。ただ鍋島村からだと遠いものですから，佐賀市与賀町に転居することになりました。この頃，日露戦争が勃発しております。鍋島村の塾生たちは「先生，そんなに遠くへ引っ越すの。私たちどうなるの」って，「じゃあ，与賀町まで通うしかない」ということになり小１時間かかったかも知れませんが，遠い道のりを歩いて通い，そこでまた教えが始まった。教えを乞う人が多くなったので「塾」は格上げされ，とうとう「裁縫教授所」なるものが設置されました。

ヤスは16歳で東京香蘭女学校に入学したものの勉強半ばで帰ってきましたから，東京の新しい学問というか新しい技能，技法とか非常に心残りに思ってらっしゃいまして，夏休みには必ず東京に行って新しい手芸のお勉強などをなさったんだそうです。その中でも特に日本赤十字社のお仕事には関心を持っておられまして，お正月４日の写真ですけれど，赤十字社の洋装制服のお写真があります。その裏面に１月４日修了式と書いてあります。１月４日に家庭の主婦が東京に行たてよかでしょうかね。善之先生がそれを許してらっしゃるということですから，妻の勉学熱心には達観し応援しておられたんでしょうね。その頃の善之先生の仕事はというと，中学校や実業学校への予備教育を施す「必習学館」という塾のようなところに席を置いておられました。明治44年必習学館が廃止されるとその４月に，私立実科女学校が創設されます。これは内田清一さんの創立でございます。そこの初代校長を善之先生はなさいます。20年間校長職を勤められたのですが，この実科女学校が後に清和高等女学校となります。

内田清一さんは早稲田大学出身。龍造寺系統の村田藩家老筋の御家柄だそうで，中島家とは親戚にあたり，27歳で校主となられました。私立実科女学校は明治44年に創設されましたが，明治37年に中島裁縫教授所はすでに創立をみていますから，７年後ということになります。つまり後の清和学園は，与賀町の私ども旭学園の横っちょに，同じ敷地内に建っていたということになります。そして今ちょうどユメマートとかいう新たな商業施設に変わろうとしておりますけれども，２校の境界というのには溝がありましてね，この机の幅より狭い溝で仕切ってありました。

仕切どころか清和高校が新しく講堂を建てますと，うちの卒業式をあっちでやったり，清和高校とこっちは行ったり来たりしていて，お名前も，うちの同窓会の名前は初め清和だったんです。だから名前も行ったり来たりで。清和高校の方は算盤がお上手になりたい生徒さん，私どもの方はお裁縫です。それらを重点的に学ぼうと言う人たちが与賀町の文教地区に集まったようです。

この写真は清和高等学校の講堂が出来た時のもので，後ろに初代校長の善之先生，その横はたぶんこれが内田清一さんだと思われます。前方にはサダさん，ヤス先生のお母様。…居並ぶほかの方々は，みんな親類の伯母様方です。お婆ちゃんたちです。一家眷属（けんぞく）です。このお顔立ち，ちょっと写真を回してください。このお婆ちゃんたちの面構え，なかなかのことじゃない。お顔立ちに顕れていますよね，武家の家刀自（いえとじ）の顔ですよね，正に。明治７年，佐賀の乱を生き抜いてきたゾっていうような，そういうお顔立ちじゃないでしょうか。

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

そうして，どんどんどんどん私たちの学校も大きくなっていきました。

昭和４年ヤス先生53歳の時，佐賀高等裁縫女学校に昇格しました。文部大臣認可の女学校でございます。そして校歌の選定がされ，卒業生は千人を越え，校服の制定とか，区切りに相応しいことをいろいろなさいました。このことが内外に伝わったのでしょうか。

翌年の昭和５年，大隈熊子女史から「中嶋（ママ）さん経営の女学校」にとお申し出があり，30円の寄付金を頂いております。これがご縁で今日の交流会，講座が成り立っているような次第であります。また，おそらく熊子様のご紹介だったと思うんですけど，翌６年にも佐賀同郷婦人会から，鍋島侯爵御母堂様，大隈熊子様などなどから特別の御後援を頂きました。佐賀ゆかりの名流婦人の声援が与賀町に届いたという訳です。ヤス先生，どんなに励まされたことでしょう。

このようにしてだんだんと大きくなってきた学校でございます。昭和25年12月10日，ヤス先生の顕彰碑が建ちました。そのときのご挨拶が残されています。

創立以来，家庭教育に根ざして女子教育に専念した結果は，本校の生徒が家庭婦人として立派な品格と才能を備えるため，更に，社会に働く婦人に適応する技能と人格を学ぶ間に和やかな家庭的情味と社会協同の精神が自主的に生れてきました。

自主的活動，自分で自分を高まらせる自主的活動，それから，信頼や男女平等の発揚に努力したいとおっしゃって，レジュメにありますように

在校生ばかりでなくこの学窓を巣立つ卒業生にもお願い致したいのは，家庭にあっても，社会に出ても，更に国際的に活動される場合でも常に「旭の如き心にて」本校で修得された品格と学識を生かしてそれぞれのつとめを立派に励まれたく希望してやみません。

と結んで，謝辞を述べられました。これがヤス先生の教育の理念であったというように考えてよろしいかと思います。

ここで留意したいのは，「良妻賢母」の語を使っておられないことです。ヤス先生は「**家庭的情味と社会協同の精神**」を強調しておられます。ヤス先生のお友達の大妻コタカ女史は「良妻賢母」使用派で，戦時中全国で講演をしていらっしゃいます。時流を憂え励まれたコタカ先生は戦後パージ（公職追放）に遭われたんですけれど…。

その時代，ヤス先生はご自分の核（本心）を隠しておられたかもしれません。ともかくヤス先生の生涯に，「良妻賢母」という言葉が見つからないことは，どうしたことでしょう，不思議です。この当時は良妻賢母を説くのがふつうです，女子教育の基本だったはずなんですがね。

また戦時中は，どこの女学校でも竹槍で体育の授業があっているんですけれども，私どもの学校には「竹槍授業」の写真がないんです。ヤス先生は写真を撮るのがお好きでして，いろんな授業の写真があります。ラジオ体操・貫通道路清掃・伸子張り・茶道・華道の授業などなど，興味

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

深い面白い写真が残されています。それなのに竹槍授業はないんです，軍事訓練の写真が残されていないんです。ひきかえ，学外での食糧増産のための農作業の写真が多くあります。そういうことがあったのもヤス先生の特徴ではなかったかと思います。これがおさらいということでよろしゅうございますか。

それでは，本日予定の分に入ります。また私が御当番でございます。

明治30年代から女子教育に関して盛んな論争がなされました。女子教育の必要性を説いた大隈重信を始めとして福沢諭吉も論争を挑んでいる。何故それはそのように叫ばれなければならなかったのか，江戸期まで遡って見てみたいと思います。

「日本近世の女子教育書」資料集の１ページでございます。皆さん，「女大学」ってお聞きになったことあると思います。女大学って，どういうものであったか。

1710年貝原益軒さん，福岡の儒学者でいらっしゃいますね。『養生訓』などをお出しになった方，貝原益軒さんが『和俗童子訓』というものにいろんなことを提起なさった。この流れが以来ずーっと続き，ついこの頃まで太平洋戦争前まで女子教育の基本的な教育書とされていたようであります。

男尊女卑と受け止められかねない女性観，儒教理念に基づいたものでありまして，女大学は１条から19条まで婦人の在り方について記されています。資料集１枚目を所々ピックアップして読みます。

１）女子は成長して，嫁に入り，夫と親に仕えるのであるから幼少のころから過保護にしてはならない。

２）容姿よりも心根の善良なことが肝要で，従順で貞節そして情け深くしとやかなのがよい。

５）嫁いだら夫の両親を実の親以上に大切にせよ。

６）妻は夫を主君として仕えよ。

８）夫に対して嫉妬心を抱くな，感情的にならず冷静に話し合う事。

これ，夫が浮気でもしたんでしょうかね。それが前提になってますね。

10）婦人は勤勉でなければならぬ。歌舞伎や，神社仏閣等人の多く集まる場所に行くのは四十歳未満の婦人は好ましくない。

大変ですよ。神社仏閣にも若い女性は行っちゃいけないんです。

15）　夫方の付き合いを重視せよ。自分の親への勤めを果たすときでも夫の許しを得ることが肝要である。

などなどありまして，それに対して　２枚目資料　明治になりましたら，教育従事者の皆さん，どうするか種々お考えになりました。いろんな教育書が出ました。

その中で女大学に批判的なもの，それから女大学を踏まえて軌道修正しながらやはり功徳を積

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

みなさいと諭す人，否々こういうことだよと，百家争鳴です。

萩原乙彦さんはやっぱり女大学を踏まえて，…大体女大学を踏まえたものが多うございました。しかし福沢諭吉さん，亡くなる２年前の65歳で『女大学評論　新女大学』というものを「時事新報」に34回掲載されました。時事新報というのは福沢諭吉が明治15年に創刊したもので，明治期の五大新聞のひとつであります。東京日日新聞，報知新聞，国民新聞，東京朝日新聞，時事新報。

そこで福沢諭吉先生御自らお書きになるから，これはこれは評判を呼びました，ちょっと難しいんですけど，原文のまま読んでみたいと思います。

①父母の子を教訓するは甚だ嘉し。父母たる者の義務として遁れられぬ役目なれども，独り女子に限りて其の教訓を重んずるとは，抑立論の根拠を誤りたるものと云う可し。…既に温良・恭順・柔和・忍辱の教えに瞑眩すれば，一切万事控え目になりて，人生活動の機を失い，言う可きを言わず，為す可きを為さず，聴く可きを聴かず，知る可きを知らずして，遂に男子に侮辱せられ玩弄せらるるの害毒に陥ることなきを期す可からず。…

男に対して泣くようなことがあってはならぬ　…つまり，そういう時代状況があったということでしょうね。一切万事控え目になって，人生活動の機を失う，そんなことがあってはいけないよ，ということをおっしゃいます。大御所・益軒先生の文言をいちいち引用して，これはああだ，そうだ，という具合にしつこく反論してゆかれます。明治32年ということは，大隈重信さんが行政を解いておられたので，お互いに響き合ってるということが言えると思います。

②人間たる者は，和順・貞信・人情深くして心静かなる可し。誠に申し分なき教訓にして，左こそありたきなれども，…女ばかりを警め，女ばかりに勧むるとは，其の意を得難し。…『女大学』の記者は有名なる先生なれども，一切万事，支那流より割り出して立論するが故に，男尊女卑の癖は免る可からず。

これは男尊女卑だろうという具合に福沢諭吉先生はおっしゃってるわけでございます。ザーッと近世から明治に至るまでの流れを追いました。

それでは続きまして，日本の女子教育，貝原益軒先生の『女大学』とおなじようなものが佐賀独自の『葉隠』にもあるわけです。『葉隠』と『女大学』はほぼ同じ時期の成立です。じゃあ，佐賀独自の教育観　資料集３ページをお願いします。

会場にご紹介したい方がおられます。西山正廣先生，こんにちは，スタンダップ，英語の先生でございますのでスタンダップと（笑）申しました。『葉隠』は全部で1343項目あります。それを全文英訳なさいました先生です。日本初であり，世界初でもあります。それを先生は私することなく，業績を佐賀県立図書館に全部提供なさいまして，インターネットで世界に発信しておられます。今，世界からいろいろ問い合わせがあっています，ですから先生作成のものが一番いい

NII-Electronic Library Service

と思って資料集に頂戴しました。

『葉隠』にみられる教育論・女性観

こういうところをピックアップして使わせていただきます。『葉隠』，皆さん馴染みのところですけれども，一番有名なところを行きたいと思います。岩波文庫でいきますと第１巻－85項目になります。

武士の子どもは育て様あるべき事なり。先づ幼稚の時より勇気を勧め，仮初にもおどし，だなす事などあるまじく候。幼少の時にても臆病気これあるは一生の疵(きず)なり。親々不覚にして，雷鳴の時もおじ気を附け，暗がりなどには参らぬように仕なし，泣き止ますべきとて，おそろしがる事などを申聞かせ候は不覚の事なり。又，幼少にして強く叱り候へば，入気になるなり。又わるぐせ染み入らぬ様にすべし。染み入りてよりは，意見しても直らぬなり。物言ひ，礼儀など，そろそろと気を附けさせ，欲義など知らざる様に，その外育て様にて，大体の生まれつきならばよくなるべし。

又，女夫(めおと)仲悪しき者の子は不孝なる由，尤(もっと)もの事なり。鳥獣さへ生れ落ちてより，見馴れ，聞馴るる事の移るものなり。又，母親愚にして，父子仲悪しくなる事あり。母親は何のわけもなく子を愛し，父親意見すれば子の贔屓(ひいき)をし，子と一味するゆゑ，その子は父に不和になるなり。女の浅ましき心にて，行末を頼みて，子と一味すると見えたり。

溺愛するなよというようなことを言ってあるわけですね。夫婦仲が悪いと不幸になるよって，それから傍線引いてるところだけいきたいと思います。

男子の育て様，先ず勇気をすすめ，幼稚の時より親を主君に准じ，不断の時宜，作法，給仕，口上，堪忍など迄，仕習ひ候いたすべし。女子は幼少より第一貞心を教へ（次の傍線のところ）**女は第一に夫を主君の如く存ずべき事なり。**

あら，これは女大学と一緒，貝原益軒先生と一緒でございます。次の段落のところ

山本前の神右衛門申され候は，「女の手跡よく，草子など見るものは密懐いたし候。みそ乞い文とて，親の所へ味噌乞ひに遣わす分の埒明けば，手跡は入らぬものなり。」手紙は立派に書けんでも「味噌頂戴」と書ければ宜しい，味噌乞(みそこ)ひ文(ぶみ)さえ書ければよいというようなことをおっしゃってる。そういうことを書いておられますけれども，しかししかし，

『葉隠』にはアッパレな女性が沢山おられます。いわゆる「賢女(さかしめ)」と言われる方々の逸話がたくさん出ています。これは表向きは**夫を主君の如く存ずべき**なんだけど，裏側から見れば立体的にみれば，違うんです。次の４ページですけれども，

慶闇尼(けいぎんに)さん，龍造寺隆信の母であった人ですね。この方は夫を亡くしてから鍋島清房に押しかけ女房した，有名な方でございますね。龍造寺と鍋島を提携協力させるために自分より３歳年下の清房，身分からいうと家臣にあたる清房に押しかけ女房になる，策略家ですねー。92歳で亡く

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

なる訳ですけれども，隆信が戦死してからの働き，戦略のアッパレなこと。

それから陽泰院さん。この人は直茂の奥さんになった人ですけれども，納富家に嫁いでいたのですが夫が戦死したもので実家石井家に帰っていて，そこへ龍造寺隆信たちがドヤドヤとやってきて，鍋島直茂も一緒にそこに居た訳です。直茂は隆信の家来にあたります。鰯を女中さんたちが粛々と焼いていたのですが，いきなりの客が大勢やってくりゃ，間に合わないわけです。そこで彼女が，火の熾きをガーッと出してそこに鰯をボーンと放りやって，一遍に焼いてそれをお皿に出して，サーッとお客様に出すと言う荒業で焼き上げた。そしたら直茂はオーッあの女性は出来るねと思って，再婚をしたんです。でもね，直茂さんには奥さんがいたのです。直茂さん，それまで暮らしていた奥さんを出しちゃったわけですよ。そうしたら，前妻から「後妻討」を仕掛けられるんです，後妻討を説明していると長くなりますから，これを知りたいとおっしゃる方は後でコッソリ…　（笑）　その時代，奥さんたちには裁判権とかないでしょうからね。離縁された前妻は，味方，自分の一族郎党を引き連れてカタキの相手宅に喧嘩しかけに行っても宜しいという仕組みが当時はありました。その時，陽泰院さんが丁寧な応対をしたもので，事なきを得たというようなことがあったり…。まあ，いろいろいろいろな方がおられました。

他にも，例えば執行越前守夫人という方がおられましたり，歴史上の人物にあんな女性になりたいという理想の女性像がたくさん『葉隠』の中には書いてございます。

表向きは夫を神様のようにというか主人を立てろと言ってるけれども，裏っ側では，男がウロウロしたりしていると女がピシッと決めていますね。

そういった方々のこともいろいろ裏話を書いてあるのが『葉隠』の面白さではなかろうかと思います。「佐賀独自の『葉隠』という水脈」はこれで終わりたいと思います。

では　3）佐賀「賢女」のお手本にいきたいと思いますが，

【江口】

ほとめき上手と書いてあります。ここに枝吉喜世という方がまず出てきますけども，これは枝吉神陽，枝吉二郎，この枝吉二郎というのは枝吉神陽の弟で，後にご存じの副島種臣と名乗ります。この人のお母さんですね。枝吉神陽というのは佐賀藩の藩士ですけれども，江戸の昌平黌で学んでそして佐賀に帰ってきたいわゆる国学者ですね。存亡論を唱えて佐賀で義祭同盟という尊王の結社をつくります。その中には弟の枝吉二郎，副島種臣のことですね。とか江藤新平，大木喬任というような連中がこの枝吉神陽を慕って，この義祭同盟に集まってくるわけですね。ちょっと遅れて大隈重信もそこに参加する訳です。この枝吉神陽のお母さん，ここにちょっと書いてありますけれども　①越前守のために部下たちをかわいがり世話をしたため，越前守が討ち死にしたとき，部下たちは生きて帰っては越前守の妻にあわせる顔がないと，36名が勇猛果敢に討ち死にしてゆく。神陽の母もこの心がけで家僕に接していたので，枝吉家で過失を犯して出て行った者も，婦人の死を聞いて泣き崩れ，頭を丸めて冥福を祈ろうとした。

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

お屋敷から追い出されて，普通であれば追い出された人たち，見向きもしないであろうと思われるにも拘らず，このようにして慕ってきたということが遺されている。

②を見ていただきたいと思います。姑に微塵もさからわずに15年間つとめた。姑さんは，必ず，喜世は賢い子どもを産むであろうと人に告げていた，ということです。

確かにこの枝吉神陽，それから枝吉二郎，後の種臣ですね。非常に出来のいい，小さい頃はそうでもなかったようですけれども，実力を発揮したと言われています。残念ながら枝吉神陽さん，比較的若い時期に40ぐらいの時に亡くなったんですけどね。このような方が佐賀の女性としてのお手本だというふうに言われているようですね。

続いて大隈三井子さんですね。

【國原】

三井子さん，城内の賢女（さかしめ）のお手本としてご紹介できるのではないかと思うんですが，ちょっとお写真をご紹介します。向こうのお部屋にも展示していますが，こちらがお母さんの三井子さんですね。晩年の頃のお写真ですけども非常にしっかりされたお婆様という感じですね。とても素敵な方です。大隈重信のお父さんというのは，つまり三井子さんの旦那さんですね。大隈さんが12歳の時に亡くなられていますので，その後このお母さんがお１人で４人のお子さんをぴしゃりと育てていらっしゃって，非常に教育熱心であり慈愛に溢れたお母さんであったといわれています。その時に，そのお母さんが常に大隈さんや兄弟にお話していた人生五訓というのがあります。

１，喧嘩をするな　２，人をいじめるな　３，いつも先を見て進め　４，過ぎたことを振り返るな　５，人が困っていたら助けよ

という今の家庭教育にも十分通用する教えをいつも大隈さんたちに教えていたわけです。そしたら大隈さんはこの五つの教えを生涯守りまして，後に大隈さんが民衆政治家として五つの信条というのを掲げてますね。その内容は，このお母さんの教えに似ております。

１，物事は楽観的に考えよ　２，怒るな　３，愚痴を言うな　４，貪るな　５，世のために働け　というように大隈さんが大きなお仕事をする上で，いつも心の中にあった信条にもお母さんの教えがとても影響しているのではないかと思っています。

次の５ページですね。①から⑧までいろんなお母さんのエピソードを書いておりますけれども，このお母さん大変信心深かったんですね。④と⑦にあたると思いますけれども，去年企画展をしたときに三井子のコーナーでは…蓮の糸に込められた母の祈り…というサブタイトルをつけました。

そのお母さん，例えば大隈さんがすごくいたずらばっかりしていた子どもの頃，喧嘩ばっかりしていたから喧嘩する前に，手に南無阿弥陀仏と書いてから心を鎮めなさいよというふうに教えていたとか，またご自身も蓮の糸を紡ぎまして観音様を織りました。それがこちらですね。お母

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

様が蓮の糸で紡がれた観音様，育児観音ですね。これを大隈さんが42歳の時，厄年のとき，たくさんの全国の寺に奉納しました。非常に手先も器用な女性で，この作業はおそろしく手間のかかる作業だと思うんですね。自ら蓮の糸を紡がれてこういった仏様を縫われました。この育児観音様を企画展の時に展示しましたが，観音開きになるその横の所にお母様の歌が書かれてあったんですね。それが資料集５ページ真ん中のあたり　母75歳の時に詠んだ歌ということで，ご紹介します。

いにしへも　かかるためしは　ありといへと（ど）
織るやはちすの　いともめつ（づ）　**らし**

くりたむる　はちすのいとの　一筋に
心こめす（ず）　**いかて**（で）**なしえむ**

非常に手間がかかることですね。こうした熱意と根気と信仰がなければ簡単には織れなかったでしょう。こうやって蓮の糸を織ることは，心込めずして織れますか…。お母さんの愛情がいかに深かったか，お母さんの慈愛に満ちあふれた祈りというのがこの観音様像の隣に詠われておりました。そういったお母様はずっと生涯亡くなるまで，東京で大隈さんの傍で大隈さんを見守りました。そして大隈さん自身もお母さんに非常に感謝の意を表して，お母さん，ちょうど明治28年お正月に亡くなられたんですけど，90歳の時ですね。大晦日の時，お母さんが危篤になった時に，せめてあと一日お正月まで生きてもらいたいということで，大隈さんは不自由な足を引きずって自らお母さんの枕元に鏡餅なんかを供えたりして，正月の儀式を行って間もなくお母様が息を引き取られたということです。

生涯お母様を大切にされたということなんですね。こういったお母様が手本になるわけなんです。次にヤスさんのお母様ですね。

【横尾】

ヤス先生のお母様　中島サダさん　86歳まで長生きされたんですけれども，クマさんとヤスさんお二人のお嬢さんがおられまして，御主人は早く亡くなられまして28歳で未亡人になられました。ヤスさんが生まれて二週間後とか二か月後だとか言われてますけれども，とにかくヤスさんはお父さんの顔は覚えていない。厳格な父君，お舅さんに仕えて中島家を守り実によく働きよく務めた方であったと言われてます。やっぱりサダさんも神仏信仰の念が篤く，生涯質素倹約を守り，教え子はもとより出入りの職人その他世の人々を愛し，陰徳を施されるので誰も「おばあ様おばあ様」と言ってなつき，また折にふれてのお話はそのまま世渡りの道にて敬慕の的であられた。先ほど清和高校の「忠」「孝」掛軸の前に，お婆さんたちがズラッと並んでおられました。正にああいう方のおひとりでございます。28歳から86歳まで家刀自を務められました。長女クマさんは二十歳で亡くなったんですけど，末娘ヤスさんを幸せに導かれました。

ただサダさんは真面目一本槍というのでもなく，ウィットに富んだ女性で，格言マニアでもあ

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

りました。彼女の制作格言に「親は子頼り　子は親頼り　池の小鮒は水頼り」があります。折々に，その場に相応しいことを，ポッポッとおっしゃっています。

では次に，「葉隠」の神髄のようなところに移ります。当時，佐賀の「忠孝」思想はどのように考えられていたか，「義祭同盟」のことについて，一番難しい所を館長さんにお願いします。

【江口】

一番難しいということで，私がやらせていただきますけれども，この当時の大隈さん及びその周辺の人たち，周辺と言ったらいけないんですよね。大隈さんだいたい……もんですからね。例えば義祭同盟に集まる人たちが，忠とか孝とか言われるこういうものをいろいろ話し合いに考えたりするわけですけれども，この義祭同盟もともと楠公義祭同盟といいまして，楠公さん即ち楠正成正行この父子を祀るという義祭という祭りという言葉も入ってますしね。そういう集団だった。（レジュメの３ページ）当時の日本というか幕府を中心とした忠孝，または天皇家これを中心とした忠孝という考え方とはちょっと違っていて，佐賀藩では忠孝というのは主君に対する忠であり，親に対する孝である。または主君に対する孝である。こういうふうな捉え方だったようです。ここには，八太郎（重信）も18～21歳の頃都合三回参加が確認されている，記録に残っているのは確かに三回だと思いますけれども，義祭同盟については結構影響を受けている。そしてこの義祭同盟ということではなくて，義祭同盟に集った仲間たちですね。大木喬任とか島義勇，それからもちろん副島種臣，こういう人たちが実はそこの生家，ここの二階に大隈さんの勉強部屋があるんですけれども，ここに集まっていろんな話をしてから，考えてみればその義祭同盟の仲間たちがここに集まって話してた内容というのは，非常に物騒な話でありまして幕府をどうやって倒すかそういうふうな話をしてたようです。

ところが，また出てきますけれども母三井子はそれを咎めることは全くなかったようですね。むしろそのように友達が来て深夜まで，または翌朝までいろんな話をするというのを喜んでた節があります。それはどういうことかというと団子をつくって持って行ったり，おにぎりを作って持って行ったり，急な階段ですよ。階段というより梯子（はしご）に近い。二階に上る，そういう梯子，全部女性の三井子さんが登って行く，びっくりしただろうと思うんですね。

ちょこちょこと２～３段上って「はい，どうぞ」と出してたんじゃなかろうかと私は推測しますけどね。そのようにして決して咎めるということもなかったようです。

先ほどちょっと出てきましたけども，『葉隠』，これ実は大隈さんが通っていた弘道館，ここの中心の勉強ですね。弘道館というのは先ほども出てきましたけども，四書五経，大学，中庸とか易経，詩経，そういうふうなものを勉強しているんですけれども，これに対して大隈さん「『葉隠』というのは奇異なる書である」と大隈さん思ってた。52歳頃と書いてある。実はどうも11歳既に弘道館でやるこの漢学，国学，これに対して，勿論『葉隠』含めてですね。これに対してどうも違和感を感じていたようですね。そこで大隈さんはこれを改革しようというふうなことを考えたんです。これを話し始めますと長くなりますので，ここで打ち切りますが…，結局，改革と

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

いうことになりますですね。大隈さんは「まあ，それよりいいだろう」ということで何をしたかというと，オランダ語ですね。蘭学，この蘭学というものを始めますね。

まあ鍋島直正公というのは蘭学，つまりオランダ学問こういうものに対して非常に寛容であって，長崎蘭学所というものをつくってたもんで，そちらに移ってます。ここでちょっとこぼれ話がありますけれども，大隈家の親戚その他はこの大隈重信，八太郎ですけれども八太郎が弘道館を飛び出して，蘭学寮に入るというのをこぞって止めた訳です。そんなことして将来どうなるのか。そんな他所の国の学問やってどうなるのか解らん，ということでこぞって止めた訳ですけれど，三井子さん，お母さんだけは「お前がやりたいことをやりなさい」。…そういうふうにして認めてやったおかげで大隈さんの視野が極めて広くなった，私はそのように思っています。

【横尾】

この時代に佐賀の女性たちはどんな活躍をしていたかというと，豊増一女（はじめ）さん，この方は明治21年に佐賀婦人矯会を結成した初代会長であります。実習女学校を建てたり佐賀女学校を設立して，35年には両校を合併して成美女学校に仕上げたり，新道幼稚園とか佐賀市婦人会長とかなさって佐賀の女性を代表すると言っていい方だろうと思います。

それから永渕アサ子さん，この方も豊増さんと一緒に活動した方でございます。永渕アサ子さんは十代の終りぐらいで実習女学校の先生したりしてらっしゃるから，ヤスさんとは年齢差が近すぎます。こっちに実習女学校が出来ていてもヤスさんが東京の香蘭女学校に行ったというのは，解らないじゃないですね。あまりにも手作りだったから，ほんとに塾のような感じで始まったんじゃないでしょうか。教育のレベルとしてはちょっと頼れなかったかもしれないけれど，草莽（そうもう）の教育という面からみると，二人は力を尽くしておられます。

黒田チカさん。我が国初の帝国大学女子学生として東北大学に入学して，女性で初めて理学博士を取得なさった方です。

その時代の女性たちの活躍もさることながら，早稲田大学では女子学生を非常に早い時期に受入られましたよね。レジュメの７）「今，あらためて，女子教育を考える」にいきたいところですが，やっぱり女子教育に最も力を入れた４年生大学というのは早稲田大学ではなかったかと思うんですが，そのあたりのことを。

【國原】

レジュメの４ページですね。７）今，あらためて，女子教育を考える，というところに入っていきたいと思います。

「女子教育奨励会」明治20年設立とありますが，この女子教育奨励会，詳しいことは後で資料集12ページの下の方に詳しく書かれていますので，ここでご覧いただければいいかなと思うんですが，この女子教育奨励会というのは日本の女性が欧米諸国の女性に比べて教育上ちょっと遅れているということで，欧米諸国の貴婦人と同等な教育，或いは家事の訓練を受けさせることを目的に，明治20年に時の総理大臣伊藤博文を創立委員長として創立された組織なんですね。

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

この委員には渋澤栄一であったり，大隈重信もこの委員の一人だったんです。そのせいか大隈さんこうした女子教育の会には必ずお名前が出ています。こちら女子教育奨励会の書簡というものを企画展では展示いたしました。こちら早稲田大学の図書館が保管している資料なんですけれども，こちらは封筒とＡ４ぐらいの一枚の紙のお手紙なんですね。よかったら回してみます。収支報告みたいなもんですかね。どれだけ収入があってどれだけ支出がありますよという簡単なそういう収支報告の一枚分だったんですが，大隈伯爵の名宛で送られています。封筒も展示しましたけれども，封筒はちょっと上が破れていましたが，恐らく外務省官舎宛てです。その当時大隈さんは外務大臣をされていましたので，外務省宛てに大隈さんへのお手紙が届いたということです。

でもどちらかというと大隈さんは，大きな会というより家庭的な女子教育，家庭が大事だぞという家庭教育の方に，力を入れていたんではないでしょうか。何か私の見方かも知れませんけど晩年の大正８年の「女子本領論」なんか見ていても，身近なところから女子教育を変えていこうとされていたと思います。

ちょっと大きすぎますよね，この女子教育奨励会というのは。もうちょっと家庭的なところから大隈さんは，女子の教育というのを変えていこうかなと考えていたんじゃないかと思っております。

【江口】

先ほどから何回も出てきておりますけども，去年國原学芸員がプロデュースしましたこの「大隈家の女性たち」，これを何とか企画展として成立させるためにいろんな資料を集めたり検討したりしてる中で，どうも大隈さんが女子教育というものを語る時に出てくるのが，男と女は協力して世の中をつくっていかなきゃならない，そういうふうにしていかないとどうしても絶えてしまうんだ，というようなことを随所で述べられているわけです。それを読みながら私は，この大隈さん，今でいうと「男女共同参画社会」を目指していたんじゃなかろうかと，私は思った訳ですね。平成11年，まさに遅ればせながら，「男女共同参画社会基本法」が成立しますが，それより百年近く前に大隈さんが既に考えていたのではなかろうか，とこういうふうに思ったわけです。

男女共同参画社会，今さらながらわざわざ言わなければならない程，日本の社会は男性社会なのか，こういうふうに一方で私は思った訳です。まぁ，ここにはいろんなことが書いてあるわけですが２行にわたって書いてありますけども，このことよりも私はこの向こう側の展示室に右側つまり南側にこの頃の私が感じた男女共同参画社会というのを，そういう言葉は勿論ないんですけれども，大隈さんはこういうことではなかったろうかと思うようなことは展示されておりますので，また時間がございましたらご覧になっていただけると結構でございます。

【横尾】

大隈侯は「女子の本領特質は愛情である」といっておられます。私どもヤス先生は「家庭教育に根差した女子教育」と言っておられ，この場合重点はどちらにかかっているのか，教育になの

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

か家庭になのか不明ですが，「家庭的情味」ともおっしゃっておられますので家庭の愛情を基本にしておられることは確かです。この愛情という問題，今まさに，これはピンチになっているのではないか。さっき館長は「男女共同参画社会，今さらながらわざわざ言わなければならない程，日本の社会は男性社会なのか，？今は」とおっしゃっいました。それよりも，その問題もですが，男性であろうと女性であろうと愛情の質が変わってきているんじゃないか…。

私，実は教育学を正式に勉強したことがないんです。まあ，行きがかり上，このような講座を担当しているんですけど，専門領域の日本近現代文学では，愛情の在り方というのは，男女の愛ばっかりなんですよね。特に，戦後は。…そうかな…それでいいのかな？と思ったりします。

ヤス先生がおっしゃってる「家庭的情味」とか，私たちのお祖母ちゃんたちが当たり前のようにしていたこと，手仕事とか子育てとか，今はどういう位置づけになっているのでしょう。大隈侯は「手術と器械」の言葉を遣って…，これは久米邦武さんが『米欧回覧実記』で農業問題に使った言葉を大隈重信さんがポッとお取りになって手術（つまり手仕事），それから器械に頼るということ，それを対比させながら手仕事は大事だよ，刺繍なんてものこそ大事だよ，そんなことを帰郷講演で女学生に説かれたわけですね。それは，御母堂三井子様の先ほどの観音様の刺繍から発想されてますよね。息子42歳厄年のときに，全国の寺社に奉納なさいました。今だったら息子の厄年，勝手にしなさいじゃないですか。このとき70いくつでしょうかね三井子お母さんは，一生懸命に蓮を紡いでお寺に奉納なさるっていう，こういう母親，今ではあまり見聞きしませんね。信心というか，プリミティブな祈りというか，なんか原始信仰みたいな，そういった祈りの流れを現代は失っているのではないか。…宗教に支えを見出すとなると新興宗教になりかねないけれど，土地の氏神様やお地蔵さんにただ手を合わせる，そういった祈る姿を家庭の中で見て育った子とそうでない世代というのは随分違っているんじゃないですか。物は豊かになったかも知れないけれど。そんな気が致します。

それから，ヤス先生は戦時中に竹槍じゃなくって鋤や鍬を持って農作業を生徒とともにしていらっしゃいました。その写真を見ていただきましたが，こちらでも畑，三井子お母さんは…

【江口】

ええ，三井子さんはここですね。ここにありとあらゆる植物を植えて，勿論食べられるものですね。野菜と言ったほうがいいかも知れません。その野菜類を植えて殆ど野菜に関しては自給自足をしてたと，それでも余るから近所に配ってたというふうに伝わってますね。ですからたった女性一人で，それもそれほど若くないのにこれだけ広い所を綺麗に手入れをしながら野菜をつくったというようなことが記録に残されております。

【横尾】

しかも，それをホトメイて回んさったとですか。

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

【江口】

そういうことです。ホトメイて，…解りますね。（笑）

【横尾】

自分の家の分だけじゃなくてご近所の，この辺は武家屋敷ですからね。ここの敷地は特別広いから沢山収穫されたでしょうね。近所の武家屋敷じゃない所にも配ってまわって，これホントに真心，慈愛・慈悲って言ったらいいんでしょう。おすそ分け。そういったことが日常生活の中にあったということを確認したいと思います。

「旭学園100周年記念誌」をご覧ください。表紙に緑の葉っぱがあしらってあります，これは10代目学長であった山田直行先生が若いころにチョロっと筆をとった緑，葉っぱです。背表紙見せていただいていいですか。この『旭学園100年のあゆみ』と銘打たれた私どもの100周年誌には，巻頭近くに，ヤス先生の肖像写真上方に，「鍋島閑叟公」を大きく，それから「大隈重信」，「下村湖人」，「豊増一女」とか，一，二，三，四人。学園関係者じゃない方の肖像写真が掲げられています。明治29年の大隈帰郷の新聞情報「手術と器械」演説も掲載され，これはもしかしたら大隈重信さんとウチの学園は関係があるんじゃないか，と，あたりをつけて，山勘での編集だったそうです。編集業務に携わったのは郷土史家の亡き福岡博先生，そして山田直行先生ですが，この頁が，実は，課題になっていました。

いつか大隈重信との関係はしなきゃいけないな，調べなきゃいけないなと思っていたところに，平成18年今から９年前です，中島家からいろんなものを御寄託頂き，そのなかに大隈熊子さんの書簡があった訳です。それで「あー，なるほど」ってことで，本日に至りました。100周年の時に課題であった大隈重信侯と旭学園との経緯，今，創立118年を迎えてようやっと宿題がひとつ終わりました。

去年，大隈記念館では「大隈家の女性たち～女子教育に注いだ熱き思い～」をなさいました。誠に素晴らしいその企画展に寄り添って，つまり記念館におんぶにだっこしていただき，今回の講座となり，一つ階段を上ることができました。

大隈三井子さん，それからヤス先生がお考えになった教育というのか，しつけというのか，人の心というのか，そういったことを振り返る時期に今こそあるんではないかなと思いながら，今日の役目を果たしたいと存じます。

【國原】

企画展の時に大隈さんの女子教育に対する考え方を勉強して，大隈さんの大きなお仕事，有名なところのお仕事ではなかったのかも知れないんですが，非常に感銘を受けました。

大隈さんの考える女子教育というのは今の世の中でも通用するところが多く，早くから大隈さんはそれを訴えてきたんじゃないかなということで，今現在の社会とリンクするところがあると思います。凄く勉強になりました。ただ大隈さんは女子教育に関してたくさん本を出されている

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

福沢諭吉先生に対して，関連文献も少なくまだまだこれからのところなのかなというのも感じ，面白いテーマではというふうにも感じました。今回こういう機会に，佐賀の女子教育と大隈さんの女子教育というところを繋げることができたというのは，私自身も勉強になりましたし，とても大切で貴重な時間だったと思います。

【江口】

今出てきましたけども，女子教育に関して福沢諭吉先生と大隈重信侯，ちょっと比較されて福沢諭吉先生の方が文献，つまり書物が沢山あると，そういうことが今言われましたので大隈さんのために，ちょっと助け舟を出したいと思います。

ご存じのとおり大隈さんというのは文字を書かなかったんですね。したがって書物に残りにくかったわけです。どうしても書物にするという場合には，周りの人親しい人たちが聞いた話をまとめると，当然自分が言いたいことを本にするというのと比べてどうしても力のかけようが変わってくるであろうということで，大隈さんの本が…，あれだけ熱意をもってやったにも拘らず，本が少ないというのはそういうところにあるんじゃなかろうかと思います。

さらに，俗な話ですけれども，大隈さんが福沢さんと比べてそれ以外の人たちも含めて比べて，マスコミ，つまり映画になったりテレビになったり，まして大河ドラマになったりしないというのは，そういうふうな書物が残ってないということがひとつあるのではないか。ある説によりますと，大隈さんがそういうふうな大河ドラマとかそういうものにならないのは，浮いた話がひとつもないと（笑）そういうふうな人だからやっても面白くないと，こういう説もあるようですね。どれがほんとか知りませんけども。大隈さんが，私は本に残っている以上の情熱をかけられたということを，疑っておりません。だからこそ，大隈さんのこういうふうな壮大な企画展を完成することが出来たと思います。念のために一言加えておきます。私も，ちょっと，協力しました。（笑）

【横尾】

一応これで私どもの試みを閉じたいと思います。味噌乞い文（みそこいぶみ）だけ女は書ければよろしいと『葉隠』にありましたが，ここに展示していますヤス先生の書簡は，東大学生時代の長男貞善さんに宛てたものです。まあ，達筆でございます。味噌乞い文どころか…もう二十歳過ぎた息子に，何と「充分気をつけて勉励して下さい」，「いやが上にもご注意なして最後の目的を無事達せられんことひたすらに神かけ願ひおがみます」などと書いてございます。どうぞご覧くださいませ。

【松藤生涯学習センター長】

先週と今週の２回にわたって，「女子教育へのまなざし―大隈重信と中島ヤス―」というテーマでお話をしていただきました。知らないことが余りにも多いことを実感させられました。私は旭学園に勤務はしておりますものの，中島ヤスの女子教育に対する体系的な考え方にじっくりと沈潜したことは余りありませんでしたので，この機会に改めて勉強させていただきました。

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

そして，佐賀の女子教育の歴史的な流れの中に，賢女（さかしめ）と言われた人たちの存在があったことを教えていただきました。現代は余りに混沌として失われたものが多いと言われますけども，先生方のお話で明治時代の人々の真摯な思いが新鮮な感じで伝わってきたように思え，そこに現代に生きる私たちが学ぶべきヒントがあると感じました。

さて，今年度の佐賀女子短期大学生涯学習センターは，生きた学びをしていただくために，できるだけ現地で講座を行う取組を始めたところでございます。今回，佐賀市大隈記念館のご厚意によりまして，このような講座を設けさせて頂くことができました。大隈記念館館長様はじめ皆様方に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。（拍手）三人の先生方にもう一度拍手をお願いいたします。（拍手）

1 h29m40s

5 月30日　配布資料

日本近世の女子教育書

○**女大学**（おんなだいがく）は，江戸時代中期から女性の教育に用いられるようになった教訓書である。ここでいう「大学」とは，教育機関の大学ではなく，四書五経のひとつである大学のことを言う。**貝原益軒**が著した『**和俗童子訓**』（1710年，宝永７）を元に作られたと見られ，1716年（享和２年）に刊行され，以来太平洋戦争前まで女子教育の教本的な扱いをされた。

（『和俗童子訓』「女子を教ゆる法」益軒81歳　→　女性をとついだ先の「家」に属するものと捉え，婦徳・婦言・婦容・婦功にわたる女子教育の望ましい方針・内容・方法について記述）

（《男尊女卑と受け取られる女性観＆儒教理念に基づく人間の価値平等観》とが同居）

女大学

１～３条，女子教育の在り方。４～19条，婦人の在り方。儒教によって女性の誡を19か条にまとめた。これらを幼少のころからよく教えこむことが肝要で，嫁入り道具を立派にすることより，こうした教育のほうが女性を幸せに導くのであると説き，冒頭には女性は容姿よりも内容が大切であると記載している。

１）女子は成長して，嫁に入り，夫と親に仕えるのであるから幼少のころから過保護にしてはならない。

２）容姿よりも心根の善良なことが肝要で，従順で貞節そして情け深くしとやかなのがよい。

３）女子は日常生活全般に亘り，男女の別をきちんとしなければならぬ，幼少といえども混浴などもってのほか。

４）七去の法。（淫乱・嫉妬・不妊・舅に従順でない・家族にうつる病・多弁・盗癖・のある嫁は離縁されるべき）

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

5）嫁いだら夫の両親を実の親以上に大切にせよ。
6）妻は夫を主君として仕えよ。
7）夫兄弟や親戚を敬愛せよ。
8）夫に対して嫉妬心を抱くな，感情的にならず冷静に話し合う事。
9）無駄話はするな。人の悪口，他人の悪評を伝えるな，気をつけないと家族，親類の不和を招く元になる。
10）婦人は勤勉でなければならぬ。歌舞伎や，神社仏閣等人の多く集まる場所に行くのは四十歳未満の婦人は好ましくない。
11）神仏に頼って祈りすぎてもいけない。人事を尽くせ。
12）万事倹約を旨とせよ。
13）主婦がまだ若い場合は，みだりに若い男に近づいてはならない。たとえ夫の親戚や下男であっても。
14）衣服はあまり目立たず，分相応に，清潔を保つこと。
15）夫方の付き合いを重視せよ。自分の親への勤めを果たすときでも夫の許しを得ることが肝要である。
16）みだりに他人の家へ出入りするな，普段は使いをやるのがよい。
17）召使を置く場合でも，任せきりでなく，自分の労苦をいとわずやるのが，婦人のつとめである。
18）おしゃべりな下女は解雇し，しつけはきちんとし，褒美をやるときは，けちけちしないで与えよ。
19）主婦の心の持ち方をのべている。従順であれ・怒り恨むことなかれ・人の悪口をいうな・ねたむ・思慮浅くするな。

明治の女子教育書（○女大学を踏まえる　△女大学に批判的）

○**高田義甫『女訓』1874年**（明治７）

近世以来の婦道観をもとにしながら，維新後の新しい文明開化的な女性観をもとりこもうとした。

43か条に，女性日常の心がけをといた教訓書。

△**土居光華『近世女大学』1874年**（明治７）

文明開化の動向を受けいれ，女性における人間性の尊厳，基本的権利・自由を力説しつつも，当時の現実生活における女性の地位や立場を考慮し，男性に譲るべきは譲るように諭している。22章。

△**土居光華『文明論女大学』1876年**（明治９）

前著を受け，享保板『女大学』の各条毎に批判文を載せ，維新後の新社会における女性の生き方について説いた教訓書。

○**萩原乙彦『新撰増補女大学』1880年**（明治13）

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

貝原益軒『女大学』の趣意をとり，儒教思想を基調に編術。12節。

○**関葦雄『改正女大学』1880年**（明治13）

『女大学』の女性観と一致。12の条文。

○**西野古海『新撰女大学』1882年**（明治15）

婦徳・婦言・婦容・婦功の４項目を中心に，新旧観念を折衷し多教訓書。26か条。

序　貝原氏に継ぎて婦女子の勤むべき義務を知らしめんとす。

第１条「開けたる国の教え」「古人の教え」とを折衷して女性の訓戒とする。

△**福沢諭吉『女大学評論　新女大学』1899年**（明治32年４月～７月，34回「時事新報」に掲載）

『女大学』の内容を徹底的に批判，近代日本にふさわしい女性教育ならびに生活の方針・内容・方法などを23か条に論述。大正末期までに50版流布。※福沢，数え３歳で父親を亡くす。

①父母の子を教訓するは甚だ嘉し。父母たる者の義務として遁れられぬ役目なれども，独り女子に限りて其の教訓を重んずるとは，抑立論の根拠を誤りたるものと云う可し。…
…既に温良・恭順・柔和・忍辱の教えに瞑眩すれば，一切万事控え目になりて，人生活動の機を失い，言う可きを言わず，為す可きを為さず，聴く可きを聴かず，知る可きを知らずして，遂に男子に侮辱せられ玩弄せらるるの害毒に陥ることなきを期す可からず。…

②人間たる者は，和順・貞信・人情深くして心静かなる可し。誠に申し分なき教訓にして，左こそありたきなれども，…女ばかりを警め，女ばかりに勧むるとは，其の意を得難し。…『女大学』の記者は有名なる先生なれども，一切万事，支那流より割り出して立論するが故に，男尊女卑の癖は免る可からず。

佐賀独自の教育観

○『**葉隠**』にみられる教育論・女性観（享保年間のころ）

①武士の子供は育て様あるべき事なり。先づ幼稚の時より勇気を勧め，仮初にもおどし，だます事などあるまじく候。幼少の時にても臆病気これあるは一生の疵なり。親々不覚にして，雷鳴の時もおじ気をつけ，暗がりなどには参らぬように仕なし，泣き止ますべきとて，おそろしがる事などを申し聞かせ候は不覚の事なり。又，幼少にして強く叱り候へば，入気になるなり。又わるぐせ染み入らぬ様にすべし。染み入りてよりは，意見しても直らぬなり。物言ひ，礼儀など，そろそろと気を附けさせ，欲義など知らざる様に，その外育て様にて，大体の生まれつきならばよくなるべし。又，女夫（めをと）仲悪しき者の子は不孝なる由，尤もの事なり。鳥獣さへ生れ落ちてより，見馴れ，聞馴るる事の移るものなり。又，母親愚にして，父子仲悪しくなる事あり。母親は何のわけもなく子を愛し，父親意見すれば子の贔屓をし，子と一味するゆゑ，その子は父に不和になるなり。女の浅ましき心にて，行末を頼みて，子と一味すると見えたり。①85（数字は岩波文庫の通し番号，第１巻85項）

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

② 男子の育て様，先ず勇気をすすめ，幼稚の時より親を主君に准じ，不断の時宜，作法，給仕，口上，堪忍など迄，仕習ひ候様いたすべし。古老斯くの如く致され候由。無精に候時は叱り候て，一日も食をくはせ申さず候。これも奉公の稽古にて候。女子は幼少より第一貞心を教へ，男と六尺間より内に居合はせず，目を見合はせず，手次に物を取らず，物見，寺参りなど仕らすまじく候。家内にてはきびしく申付け，難儀いたしたるが，在り附き候てより退屈これなく候。　⑪1337

③ 毎朝，拝の仕様，先づ主君，親，それより氏神，守仏と仕り候なり。主をさへ大切に仕り候はば，親も悦び，仏神も納受あるべく候。武士は主を思ふより外のことはなし。志つのり候へば，不断御身辺に気が付き，片時も離れ申さず候。又女は第一に夫を主君の如く存ずべき事なり。　①31

④山本前神右衛門申され候，「女の手跡よく，草子など見たるものは密懐いたし候。みそ乞い文とて，親の所へ味噌乞ひに遣はし候分の埒明けば，手跡は入らざるものなり」
⑪128

⑤ 前神右衛門申し候は，娘の子は育てぬがよし。名字に疵をつけ，親に恥をかかする事あり。頭子（かしらご）などは格別，其の外は捨て申すべしとなり。　②116

⑥ 北の方と申すは，西枕にして男は南の方に北向きに臥し，女は北の方に南向に臥し候事。　⑪151

⑦ すら笑ひする者は，男はすくたれ，女はへらはる。　①60

（資料提供　西山正廣氏）

○『葉隠』のアッパレ女性たち（賢女（さかしめ））

慶闇尼（けいぎんに）（龍造寺隆信の母）鍋島清房に押しかけ女房

陽泰院（鍋島直茂夫人）夫納富治部大輔戦死→実家で塩イワシを早わざで焼き上げる→直茂がその器量を認め再婚→前妻から「後妻討（うわなりうち）」を受ける　→丁寧な応対
寒い時節，牢屋に粥を差し入れ。
実家・石井一門に勘定方などの役につけぬよう言い渡し

慶円尼（鍋島直茂前室）高木家の長女，龍造寺満家と婚姻，戦死→直茂と再婚
→実家が大友に内応のため離縁される，直茂再婚→「後妻討」

高源院（鍋島勝茂夫人）夫婦仲よろしく，忠直・直澄・直弘・直朝などを生み
→実子で鍋島各支藩を固める

小倉女（翁助〈光茂〉の乳母→　忠直没後，高源院の実子・直澄に世継ぎをの声

NII-Electronic Library Service

→勝茂と高源院の宴席に→４歳の翁助を抱いて現れる→世継ぎは翁助に

執行越前守夫人→内助の功の極み（常朝『愚見集』）

→部下に日頃から懇ろに応接→部下が夫とともに討ち死に

百武志摩守夫人→佐賀の「巴午前」

秀の前，鍋島茂治の息女，千布太郎左衛門茂利の妻，鍋島元茂〈小城藩祖〉の母（お岩さま），黒川小右衛門の妻，高木某の妻

大隈の女子教育支援

明治32年，私立佐賀女学校（２年制，豊増一女・永渕アサ子，大隈重信後援）

明治34年，佐賀県高等女学校開校　⇔　与謝野晶子『みだれ髪』

明治35年，私立成美女学校（実習女学校と佐賀女学校の合併）

矢島楫子（1833－1925　天保４－大正14）女子学院校主代理（明治14年），婦人矯風運動

成瀬仁蔵（1858－1919　安政５－大正８）梅花女学校校長，日本女子大創設（明治34年）

中島ヤスの女子教育

「旭の如き心を望む」

佐賀県内にも多くの学校がありますが，学校も個人と同じく，その誕生や育ち方でそれぞれの特色を持ち，自然に校風が備わっているのが伺われます。

本校五十有五年の歴史を考えますと，初め女子の家庭教育を致し，のちには女子職業教育を併せ行って，卒業生六千余を社会に送り出しております。

かように本校が創立以来，**家庭教育に根ざして女子教育に専念した結果は，本校の生徒が家庭婦人として立派な品格と才能を備えるため，更に，社会に働く婦人に適応する技能と人格を学ぶ間に和やかな家庭的情味と社会協同の精神が自主的に生れてきました。**

高等女学校に改められるとき，過去の校歴と将来の希望を深く考えまして私は**旭の校名**を選び学校役員其他一同の賛成を得て校名が定まりました。

今度新暁第二号に本校五十周年記念行事中から，大塚岩市先生（当時，佐賀県立佐賀高等女学校長で佐賀県高等女学校長会代表）の祝辞が記されましたので，皆様お読みの通り，本校の校名旭の精神を御了解のことと存じます。この御祝辞は旭の精神即ち本校の校風をよく理解されて居て，現在も将来もこの三つの要素即ち**盛り上る力（自主的活動），信頼と敬愛（一校一家）**，及び**女性の向上（男女平等）**の発揚に努力したいと思います。

校風の発揚は何よりも生徒皆様の自覚と実行による外はありません。生徒一人一人がよくこの旭の精神を実行して本校の美風を上げることを，何よりも楽しみと致します。

在校生ばかりでなくこの学窓を巣立つ卒業生にもお願い致したいのは，**家庭にあっても，社会に出ても，更に国際的に活動される場合でも常に「旭の如き心にて」本校で修得された品格と学識を生かしてそれぞれのつとめを立派に励まれたく希望**してやみません。

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

本資料後半部にヤス先生略年譜と中島家の家系図を掲載している。また，山下行夫氏に提供していただいた史料も掲げた。山下氏からは，女子教育についての歴史認識，殊に「女子教育奨励会」に対する綿密な検証を経た部厚い資料を頂戴した。講座では氏の資料を全文配布したが，本稿では紙数の都合により年譜・家系図と併せて割愛する。

あとがき

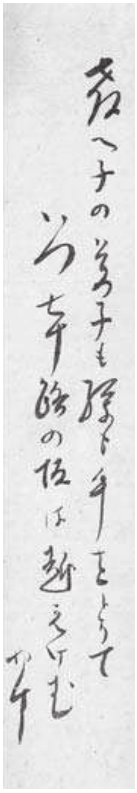
本稿は，佐賀市大隈記念館の多大なる御尽力により成り立っています。講座に先立ち，山下行夫氏(元佐賀市教育総務課長)には御示唆と資料提供を得て，さらに講演記録も氏のテープ起こしによるリライト原稿です。「葉隠」関連事項につきましては西山正廣本学元教授に資料提供を得ました。また，中島ヤス先生御令孫・真崎幸恵様より講座開催に対しご厚志を賜りました。佐賀清和学園の創設者・内田清一氏の御令孫であられる内田俊輔様にもご協力いただきました。方々のご芳情に，篤く，御礼申し上げます。

NII-Electronic Library Service

御母堂三井子様を囲んで大隈重信・綾子夫妻
（「實業之日本」大正11年２月号より転載、提供：佐賀市大隈記念館）

三井子様の刺繍作品「藕絲育児観音」
（提供：佐賀市大隈記念館）

御母堂サタ様を囲んで家族写真
（裁縫所15周年記念　大正８年４月27日　前列・サタ様、ヤス先生　後列・長男貞善様、夫善之先生）



ヤス先生短冊（二葉）

NII-Electronic Library Service

ポスター表
「大隈家の女性たち　～女子教育に注いだ熱き思い～」
（提供：佐賀市大隈記念館）
（左から３人目綾子夫人、右から２人目熊子女史）

〃　裏
（企画展は「賢母　三井子」「ファーストレディ　綾子」「もうひとりの妻　美登」「大隈重信と女子教育」の４部構成）

NII-Electronic Library Service

清和高校講堂にて
一家眷属の記念写真
（前列　左端・内田清一夫人ウタ様、右から３人目サタ様　後列左・中島善之先生、右・内田清一校主）

鍋島閑叟公はじめ、近代女子教育に携わった人々
（『旭学園100年の歩み』26、27頁より）

江戸期　佐賀城鬼丸聖堂古地図
（『旭学園100年の歩み』24、25頁より）

調理実習に立ち会うサタ様

頌徳記念碑とヤス先生
（創立50周年記念　昭和25年12月10日）
（碑文表：文部大臣田中耕太郎書、碑銘：大木俊九郎撰書）

NII-Electronic Library Service